

「リズム読みプリント」の作り方

Let it go

□ □ □ □ □

The snow glows white on the mountain tonight

□ □ ○ □

Not a footprint to be seen.

□ □ ○

A kingdom of isolation,

□ ○ □

and it looks like I'm the Queen

□ □ ○ □ □ □

The wind is howling like this swirling storm inside

□ □ □

Couldn't keep it in;

□ □ □

Heaven knows I've tried

□ □ □

Don't let them in,

don't let them see

Be the good girl you always have to be

Conceal, don't feel,

don't let them know

Well now they know

Let it go, let it go

Can't hold it back anymore

Let it go, let it go

Turn away and slam the door

I don't care

○
what they're going to say

Let the storm rage on.

 □
The cold never bothered me anyway

まず、歌えるようにさせてあげたい曲の歌詞を手に入れます。インターネットで検索するとすぐに入手できます。

それをコピーしてワードに貼ります。次にそれをプリントアウトして鉛筆で内容語(動詞・副詞・形容詞・名詞)の全ての第一強勢のある母音字の上に大きな□を記入します。

曲をかけて、強勢のある箇所を聴き取り、チェックします。内容語なのに歌のメロディーにのせるために強勢がない場合や、逆に機能語なのに強く読まれているところがあるので、まず弱く読まれる内容語は小さな□にします(生徒に内容語なのに弱く読まれていることを確認しないのであれば記号を削除してしまいます。)。そして機能語(前置詞・接続詞・疑問詞・代名詞・助動詞)なのに強く読まれる箇所は「大きな○印」をつけます。実際に自分で強勢の記号があるところでボールペン叩きをしながらリズム読みをしながら、記号の位置を何度も確認します。そして自分で歌えるようになるまでリズムの場所を確認するのです。

リズム読みでは、フリ仮名を全てに振ってあげることもお勧めです。そしてリズム読みをすることによってリズムを守るためには、そのカタカナ通りには読めないことに気が付かせたいです。「音の化学変化」が起きる場所に、

繋がるようなマークを書き込んだり、脱落する音は()で括ったりすると良いと思います。

did you などは デイジュとなるように デイドゥ ユー と記号をつけたりします。

ジュ

What they are などは ワツ(ト)ゼイトを括弧でくくるのです。音の化学変化になれば、フリ仮名もふらなくてもリ

ズム読みさえすれば大丈夫だと思いますが、最初は書いておいた方が「リズム優先で個々の音はどんどん変わる」と

いうことを学ばせることができるはず。まずは教師が歌えるようになるために、CDを何度も聴いてリズム読

みの練習をする。そしてこのプリントさえ出来上がれば、授業では生徒たちは10分も練習すれば全員歌えるようにな

ってしまいます。教科書『CROWN II』にはマイケルジャクソンについてのレッスンが教科書にあるので何曲が歌わせ

ようと思ったのですがリズム読みプリント作るのは本当に大変でした。しかし生徒たちはこのプリントとリズム読み

さえ練習させれば、あのBeat itだってスリラーやBlack or white だっていとも簡単に歌えるようになってしまいます。

是非歌を授業に導入するなら、歌えるように指導してみてください。お気に入りの曲を聴いてるだけや穴埋めだけで

はもったいないです。